

栃木県埋蔵文化財 センターだより

発行 平成24年12月21日
栃木県教育委員会
宇都宮市埜田1-1-20
TEL 028-623-3425
編集 (財)とちぎ未来づくり財団
埋蔵文化財センター
下野市紫474
TEL 0285-44-8441
FAX 0285-44-8445
URL <http://www.maibun.or.jp>

2012
12月
やま
かいどう



CONTENTS

- 埋蔵文化財センターが実施した発掘調査から市ノ塚遺跡（真岡市）
- 市ノ塚遺跡現地説明会
- 埋蔵文化財センター普及事業の紹介
- 総合教育センター公開講座
- 埋蔵文化財センター 一般公開
- 特集 石で飾られた古墳
- ロビー展示から
- 史跡足利学校跡（足利市）長者ヶ平官衙遺跡（那須烏山市）
- 埋蔵文化財センターが実施した整理作業から山の神Ⅱ遺跡（さくら市）

埋蔵文化財センターが実施した発掘調査から

1. 市ノ塚遺跡（真岡市）－高田門徒の生活の跡か？－

市ノ塚遺跡は、これまでの発掘調査から古墳時代の大規模な集落跡や古墳、また中世の墓などが確認されています。平成23・24年度には県道建設に伴う発掘調査が行われ、縄文時代の陥し穴、古墳時代の竪穴住居跡、古代の大型掘立柱建物跡、中世の大溝、井戸跡、掘立柱建物跡などが発見されました。

なかでも、今から1400年以上も昔の古代の掘立柱建物跡は大型で、この地域を支配していた有力者が居住したことが考えられます。また、中世（13～15世紀）のものでは、平成23年度の調査で発見された大溝跡の一部と、平成24年度に発見された掘立柱建物跡の棟の向きが同じであり、出土した遺物から室町時代のもので共通していることがわかりました。

また、遺跡から300mほど西に専修寺というお寺があります。浄土真宗の開祖とされる親鸞聖人が東国教化のため、鎌倉時代に如来堂を建立し、拠点として活動を行っていたことが伝えられています。



市ノ塚遺跡の位置



古代の掘立柱建物跡



溝から出土した土器

その後、室町時代になると専修寺となり、親鸞の門徒がそこで教を説いていました。文献でも、この辺りを高田の寺内と呼んでおり、今回の発掘調査で発見された中世の集落で、当時の専修寺の門徒の人々が布教活動や生活をしてきたと考えられます。県内では中世寺院と関連した集落跡は少なく、今回の発掘調査は専修寺と市ノ塚遺跡の関連性を探る上で、貴重な発見となりました。

市町教育委員会が実施した発掘調査から

2. 史跡足利学校跡（足利市）－足利学校土塁下から旧西堀を確認－

足利学校は足利市の中心市街地に位置し、日本最古の学校として知られています。大正10年に国の史跡に指定され、現在は江戸時代中期の姿に復原され一般公開されています。

今回の調査は、これまで不明確であった足利学校西堀の位置を確認する目的で平成23・24年度に発掘調査を行いました。その結果、現在の西土塁中央部及び南西角付近にて西堀の一部が確認されました。中央部の調査では西堀の東側立ち上がり、南西角付近では堀の内側コーナーが、いずれも現況土塁直下で確認されました。この堀跡は中世から明治末にかけてのものと考えられ、調査の結果、3時期の変遷ならびに、改修とともに堀幅が狭くなることがわかりました。なお、現況土塁は大正元年に旧西堀を埋め立てて移築されていることが足利学校管理委員会の日誌で確認されています。

以上のように、足利学校の旧西堀は現在の西土塁のほぼ真下からその外側にかけてめぐっていたことが確認されました。
(足利市教育委員会 0284-20-2230)



史跡足利学校の位置



土塁下の西堀東立ち上がり（西から）



西堀西側立ち上がり（北から）

3. 長者ヶ平官衙遺跡（那須烏山市）－正倉の建物跡を確認－

長者ヶ平官衙遺跡は、古代の役所跡と東山道跡、これらと交差する道路跡などが相互に深い関係を持ち、遺構も良く残されていて、古代国家の交通体系や地方の体制を具体的に示す遺跡として貴重であることから、長者ヶ平官衙遺跡附東山道跡として平成21年2月に国史跡に指定されました。

昨年度の調査は、正殿や脇殿が発見された正庁の西側で、これまで未調査の地点です。その結果、掘立柱建物跡2棟、礎石建物跡2棟、溝1条などを確認しました。礎石建物跡は、ロームと黒色土を交互に硬く突き固め、重ねていく版築工法で建てられているものです。掘立柱建物跡や礎石建物跡は、米などを収納した正倉跡と考えられ、これまでの調査と併せると、多くの正倉があることが確認されました。また、今回確認された溝は、以前の調査で確認された区画溝の続きと考えられます。

(那須烏山市教育委員会 0287-88-6223)



長者ヶ平官衙遺跡の位置



礎石建物跡（写真左）と掘立柱建物跡（写真中央）の確認状況



掘立柱建物跡の確認状況

埋蔵文化財センターが実施した整理作業から

4. 山の神Ⅱ遺跡（さくら市）-中世の石鍋が出土-

山の神Ⅱ遺跡では、発掘調査により古代から中・近世の遺構・遺物が確認されました。このうち、今回紹介するのは中世の「石鍋」です。石鍋は滑石（ろう石のような軟らかい石材）を材料として、削りだして作られます。お釜のように口の下に鑊つばの付く形が特徴的です。この石鍋は破損品で、全体の1/10くらいしか残っていませんでしたが、大きさを復元してみると、口径24.2cm、底径17.4cm、高さ11.4cmであることがわかりました。写真に示すように、外側全体に多量の煤が付着しており、火にかけて鍋として使われたことがわかります。

石鍋は長崎県の西彼杵半島にしそのまで、おおよそ10世紀末頃から作られはじめたと考えられており、最も盛んになるのは13世紀後半から14世紀前半頃とされています。本例もその頃のものと思われます。県内では、他に下野市しもふるだて下古館遺跡で5点の石鍋が出土しているだけですから、大変貴重品だったと考えられます。遠く九州から運ばれて大事に使われたのでしょう。



山の神Ⅱ遺跡の位置



(断面)

石鍋

◇いちぶか市ノ塚遺跡現地説明会◇

7月21日（土）に、真岡市高田の市ノ塚遺跡で現地説明会を、午前と午後の2回行い、約150人が参加しました。縄文時代の陥し穴、古代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡、中世の掘立柱建物跡などが発掘され、担当職員が見学者を誘導し、わかりやすく説明をしました。



遺構の説明



遺物の説明

また、出土した土器や陶磁器類の一部を展示して、解説しました。今回発掘調査したところは、親鸞聖人しんらん由来の高田山専修寺たださんせんじゅじの東約300mのところであり、親鸞聖人と同時代と思われる溝や建物跡に、興味を抱いた見学者も多かったようです。

埋蔵文化財センター普及事業の紹介

埋蔵文化財センターは、県内各地で行った発掘調査の出土品を多数保管しています。本物の土器や石器を学校教育や生涯学習の場で活用していただけるよう、さまざまな取り組みを行っています。



史跡見学

職員が、古墳などの遺跡に案内し、わかりやすく説明をしています。埋蔵文化財センター見学と近隣の琵琶塚古墳・摩利支天塚古墳の見学を、セットで申し込む学校もあります。



出前授業

職員が、土器や石器を持参して学校に出向き、授業を行っています。学校の近くで遺跡の発掘調査が行われている場合は、なるべくそこから出土したものを授業で紹介するようにしています。

土器づくり・土器焼き



土器作りや土器焼きに、職員が講師として出向きます。見本として実際の土器を持参し、土器の作り方や文様の付け方を説明したうえで、土器作りのアドバイスをしています。1月以上乾燥をさせて、屋外で土器焼きを行います。



◇総合教育センター公開講座◇



○平成24年8月25日、学びの杜の公開講座「縄文時代の編布（アンギン）でコースターを作ってみよう」が栃木県総合教育センターで行われました。講座には15名の参加がありました。前回の公開講座では「縄文時代の生活について考えよう～石器作り、弓矢作り」を行っており、今回はその続編です。

○1時30分、公開講座の始まりです。最初に埋蔵文化財センターで発掘した遺物を用いて、縄文時代の暮らし・生活についての講義です。敷物や擦った植物繊維を絡ませて編んだ編布（アンギン）について説明をした後、2時20分、アンギン編みによるコースター作りを始めました！

埋蔵文化財センター一般公開

7月29日（日）から8月3日（金）に埋蔵文化財センターの一般公開を行いました。今年は、小中学生がより多く参加して頂けるように、期間を延ばし、休日を含む夏休み中の6日間としました。295名の参加があり、勾玉作りや弓矢体験に熱中する親子の姿が目立ちました。



センター見学



まがたま
勾玉作り



弓矢体験



たくほん
拓本体験

土器や瓦の表面に和紙を貼り付け、専用の墨で文様を写し出す「拓本」の技術を体験してもらいました。拓本はお持ち帰りです。

今年は、縄文時代に行われた弓矢による狩猟の疑似体験コーナーを、新たに設けました。遺跡から出土した本物の石鏃（やじり）を使うことはできません。安全面を考慮して作った模造の弓矢で、当時の獲物を描いた的を射てもらいました。夕食のメニューを想像しながら、獲物をgetすることができたでしょうか。

どき どぐう
土器・土偶づくり

粘土を用いた土器や土偶作りは時間がかかります。そこで今年から、“おがくず粘土”という、速乾性の素材を使って、小さな土器や土偶を作るコーナーを始めました。作品はお持ち帰りです。



おがくず粘土による土偶作り

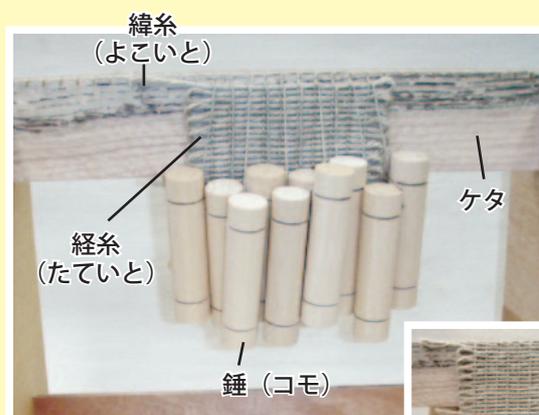


土偶の型と完成した土器

○まず道具作りから。アングイン編み機を組み立て、錘（コモ）に糸を巻き付けるところから始めます。道具がセットできたら、いよいよ開始です。

○錘（コモ）をつけた経糸（たていと）をケタの刻みの上をかけ、ケタの上に緯糸（よこいと）をあてます。緯糸に錘のついた経糸を絡めるように、手前側から向こう側に、向こう側から手前側に錘を交互に送ります。1列終わったら、緯糸を折り返して次の段を作ります。あとはひたすら繰り返すのみ。でもここからが大変です。

○4時をまわりました。少し時間はかかったけど、ほぼコースター程度の大きさまで編むことができました。少しのミスはご愛嬌。致命的なミスでなければ使うのに問題ありません。



完成品

特集

石で飾られた古墳

弥生時代の後、奈良時代までの間
した。この古墳が造られた時代を“古
古墳)で、鍵穴形をした前方後円墳で
といわれています。古墳を造るには、
どのたくさんの作業が必要でしたか

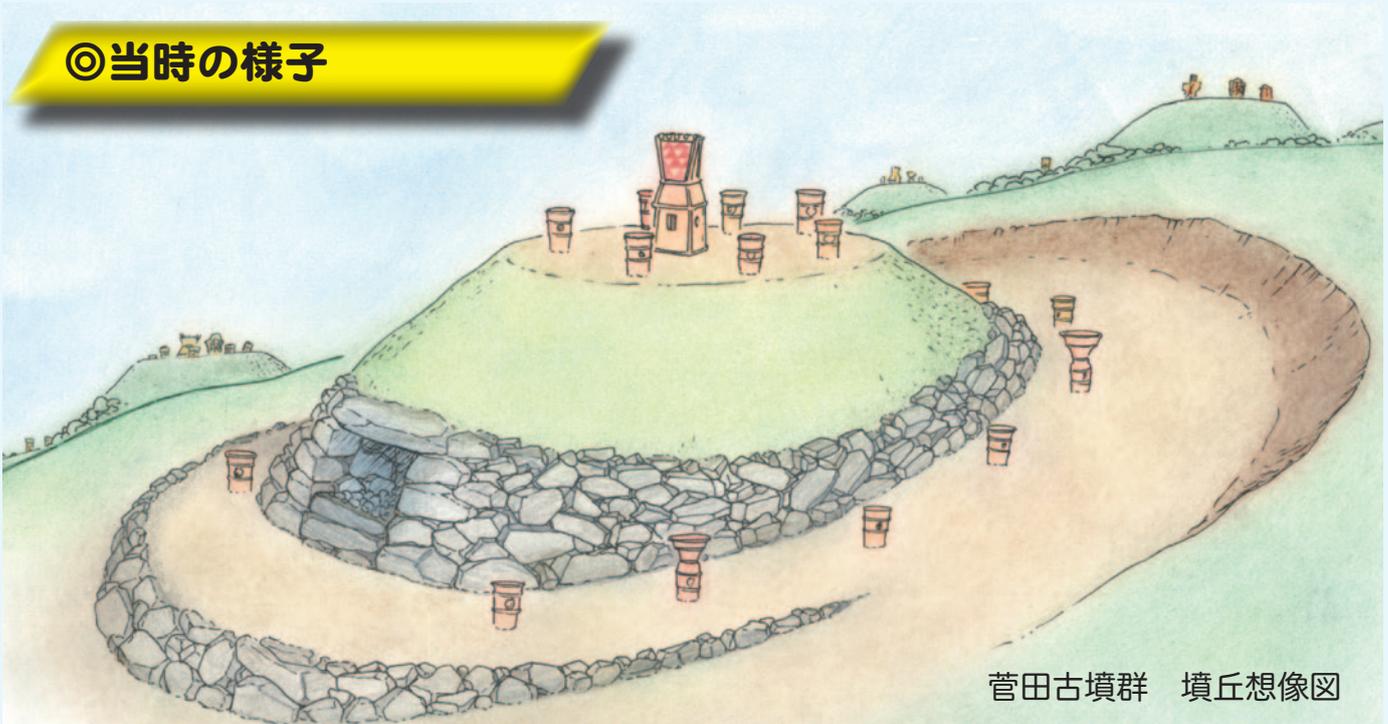
古墳の造り方は時代や地域によって違いがありますが、足利市菅田古墳群の発掘調査では、表面を石で覆った古墳
う石を“葺石”^{すげた}と呼び、各地の多くの古墳にみられます。今回は“葺石”を取り上げ、完成直後の古墳の姿を探ってい



菅田30号墳（足利市）を横から見ています。墳丘に
石が積まれているのが分かります。

葺石を持つ古墳は、足利や佐野に多く、群馬ではさらに多い傾向があります。

◎当時の様子



菅田古墳群 墳丘想像図

古墳は今でこそ草木が生い茂って、野山の一部のように見えます。しかし、造られた当初はあたかもピラミッドやお城の石垣のようにみえたことでしょう。墳丘の周りを石で二重に囲み、頂上や周囲には埴輪が並べられていました。完成直後はこんな感じだったのかな？

(3世紀中頃から7世紀)に、東北地方南部から九州地方にかけて、土を盛り上げた墓“古墳”が盛んに造られま
墳時代”と呼びます。古墳の大きさや形は様々です。一番大きな古墳として有名なのは、仁徳天皇陵古墳(大山
すが、最も多く造られたのは形が丸い“円墳”です。古墳は全国で15万基以上、栃木県では5千基以上造られた
大きな石をたくさん積んで死者を納める石室を造り、大量の土を高く盛り、さらに埴輪を作って古墳に並べるな
ら、古墳に葬られた人は大勢の人に号令をかけることができた有力者であったことが分かります。

が見つかりました。このように古墳を覆
きます。



空から見た菅田古墳群

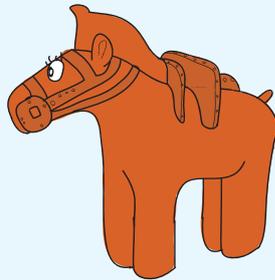
菅田30号墳

山の上にたくさん古墳が造られています。円形
に巡った石の列(葺石)がわかるものがあります。

◎なぜ石で飾られたの？



葺石は、傾斜がゆるく崩落の心配のない
ような古墳にもあることから、装飾と
しての意味合いも強いと考えられます。



◎石でできた古墳「積石塚」つみいしづか

土を使わずに、石だけを積
んで造った古墳もあります。
これは積石塚と呼ばれていま
す。積石塚は朝鮮半島に多い
ため、日本の積石塚は朝鮮半
島から移り住んだ人が造った
という説があります。



こまるやま
小丸山6号墳



小丸山古墳群と十三塚遺跡の位置

積石塚が多い地域(群馬や長野の一部)では、馬の飼育や鉄の生産が早く始まったところが多く、
渡来人による技術の導入の結果と考えられています。栃木でも、矢板市の小丸山古墳群で積石塚
が1基(小丸山6号墳)発掘されていて、鍛冶を行った痕跡や馬具(くつわ)が発見された近くの
十三塚遺跡との関係が注目されます。

尾根の上に造られた古墳 すげた -菅田古墳群-

菅田古墳群は、足利市街地の北約4kmに位置し、丘陵の尾根上に約50基の小古墳が密集しています。平成17～18年度に発掘調査を行い、古墳時代中期から後期にかけて（約1,600～1,400年前）の円墳9基と、前方後円墳1基などが発見されました。

古墳時代中期の円墳である菅田24号墳からは、いちようばがた線で銀杏葉形の図形を描いた円筒埴輪が出土しました。このような埴輪は宇都宮市南部から小山市にかけて多く発見され、当時の足利地方との地理的なつながりを考えるうえで、貴重な資料になります。



菅田古墳群の位置



展示の様子

一方、古墳時代後期（約1,500～1,350年前）の古墳からは、人物や馬・盾などをかたどった埴輪が多く出土しました。この時期になると古墳の内部に死者を安置する横穴式の石室を設けるようになります。そこからは、遺体に副えられたちやくとう直刀や鉄製のぞくめう鎌、瑪瑙や水晶で作られたきりこだま勾玉・切子玉、ガラス玉（ビーズ）、金メッキの耳環（イヤリング）などが出土しました。石室の入口付近では須恵器の巨大なかめ たかつき甕や高坏、壺などが発見され、こうしたものも葬られた人に捧げられたことが分かりました。



じかん くしろ
耳環・釧・玉類



いちようばがた
埴輪に描かれた銀杏葉形の図形